

[普及事項]

新技術名：「あきたe c oらいす」におけるピラクロニル1キロ粒剤の田植同時散布による雑草防除体系（平成16、25年）

研究機関名 農業試験場 作物部 作物栽培担当
由利・仙北地域振興局農業振興普及課
担 当 者 薄井雄太・三浦恒子・他3名

[要約] 水稲移植栽培において、ピラクロニル1キロ粒剤を田植同時散布し、ノビエの発生を遅らせることで、その後散布する一発処理除草剤の散布適期が拡大し、水稲の生育後半まで十分な除草効果が得られ、「あきたe c oらいす」に適用できる。

[普及対象範囲] 県内全域

[ねらい]

一発処理除草剤の散布時期は代かきから10日以内としているが、代かきから移植までの日数が長い場合は、ノビエの枯殺限界を過ぎた散布となり、除草効果が不足し中・後期剤の散布が必要となる。そのため、除草剤の使用成分回数が増えて「あきたe c oらいす」に適用できない場合がある。「あきたe c oらいす」では、初期剤の移植前使用はできないことから、除草効果が高く、薬害が少ないピラクロニル1キロ粒剤の田植同時散布に注目し、成分数の少ない一発剤と組み合わせた省力的で効果が高く、「あきたe c oらいす」に適用可能な雑草防除技術を確立する。

[技術の内容・特徴]

1. ピラクロニル1キロ粒剤の移植当日散布は1回目の調査では除草効果が高く、ノビエなどの対象雑草を中期剤散布まで十分に抑草した。イネに対する薬害は見られなかった。2回目の調査までも比較区と同等に除草効果が高かった(表1)。
2. 現地試験において、ピラクロニル1キロ粒剤の田植同時散布と一発剤の組み合わせは除草効果が高く、普及性が高いと判断された。また、2成分混合の一発剤と組み合わせることで除草剤の使用を3成分回数に抑えることができる(表2)。
3. 一発剤と中・後期剤の組み合わせでは、選択する除草剤の成分数によって、3~8成分の使用となり、「あきたe c oらいす」に適用できない場合があるが、1成分の初期剤であるピラクロニル1キロ粒剤と2成分混合の一発剤の計画的な散布は、合計3成分の使用となり、「あきたe c oらいす」に適用できる(図1、表3)。

[成果の活用上の留意点]

1. 初期剤の田植同時散布を行った場合、一発剤の散布時期を遅らせることができ、作業日程に余裕を持たせることが可能となる。また、後次発生雑草も有効に防除でき、中・後期剤の散布の省略が可能となる(図1)。
2. 田植機に装着された専用散粒機は、取扱説明書などを参考にして調節した後、散布を行う。
3. 田植同時散布の際には完全落水ではなく、田面が露出しない程度に水を入れ、水尻を止めた状態で移植作業を行う。なお、薬害のおそれがあるので補植はしない。
4. 移植終了後は、必ずその日のうちに3~5cmの湛水を行い田面が露出しないようにする。

[具体的なデータ]

表1 場内試験における除草効果(2004年)

| 成分名 | 含有率 (%) | 商品名 | 処理時期 | 除草効果(%:対無除草区残草重量比) | | | | | | 薬害 |
|--------------------------|--------------------|---------------|----------------------|--------------------|------------|-----|-----------|------|------------|----|
| | | | | ノビエ | カヤツリ グサ | コナギ | 一年生 広葉 | ホタルイ | ヘラオ モダカ | |
| ピラクロニル | 1.8 | ピラクロン/兆1キロ粒 | 移植日 | 10 | t | 0 | t | 16 | - | 無 |
| ベンチオカーブ シメトリン MCPB | 10.0 1.5 0.8 | →クミリードSM粒 | (体系)移植後22日 (イネ5葉) | 0 | - | 0 | 0 | 0 | 0 | 無 |
| プレチラクロール | 4.0 | (比較)ソルネット1キロ粒 | 移植後3日 | 2 | 0 | 0 | 0 | t | - | 無 |
| ベンチオカーブ シメトリン MCPB | 10.0 1.5 0.8 | →クミリードSM粒 | (体系)移植後22日 (イネ5葉) | 0 | - | 0 | 0 | 0 | 0 | 無 |

- 1) 栽培方法・供試品種: 中苗移植栽培・あきたこまち
- 2) 植代日・移植日: 5月6日・5月10日
- 3) 雑草調査: 1回目 6月1日(移植後22日)・2回目 6月22日(移植後43日)
- 4) 試験区構成・面積: 2反復・1区6㎡
- 5) 表中の t は1%未満を示す。

表2 現地試験における除草効果(2013年)

| 実施場所 | 植代月日 田植月日 試験面積 | 成分名 | 含有率 (%) | 商品名 | 処理時期 | 総合評点 |
|------|----------------------|----------|---------|-------------|-----------|------|
| 由利 | 5月7日 | ピラクロニル | 1.8 | ピラクロン/兆1キロ粒 | 移植日(田植同時) | A |
| | 5月16日 10a | テフリルトリオン | 5.8 | →ボデーガード | 移植後11日 | |
| | | フェントラザミド | 5.8 | フロアブル | | |
| 仙北 | 5月19日 | ピラクロニル | 1.8 | ピラクロン/兆1キロ粒 | 移植日(田植同時) | A |
| | 5月23日 30a | ピリミスルファン | 0.50 | →ヤイバ | 移植後11日 | |
| | | フェントラザミド | 3.0 | 1キロ粒 | | |

- 1) 栽培方法・供試品種: 中苗移植栽培・あきたこまち
- 2) 雑草調査: 由利; 1回目 5月27日(移植後11日) 2回目 6月26日(移植後41日)
仙北; 1回目 6月3日(移植後11日) 2回目 7月3日(移植後40日)
- 3) 総合評点(A: 除草効果・薬害の面で普及上特に問題はない、B: 普及にあたって更に検討する必要がある、-: その他(特別な理由により判定できない))

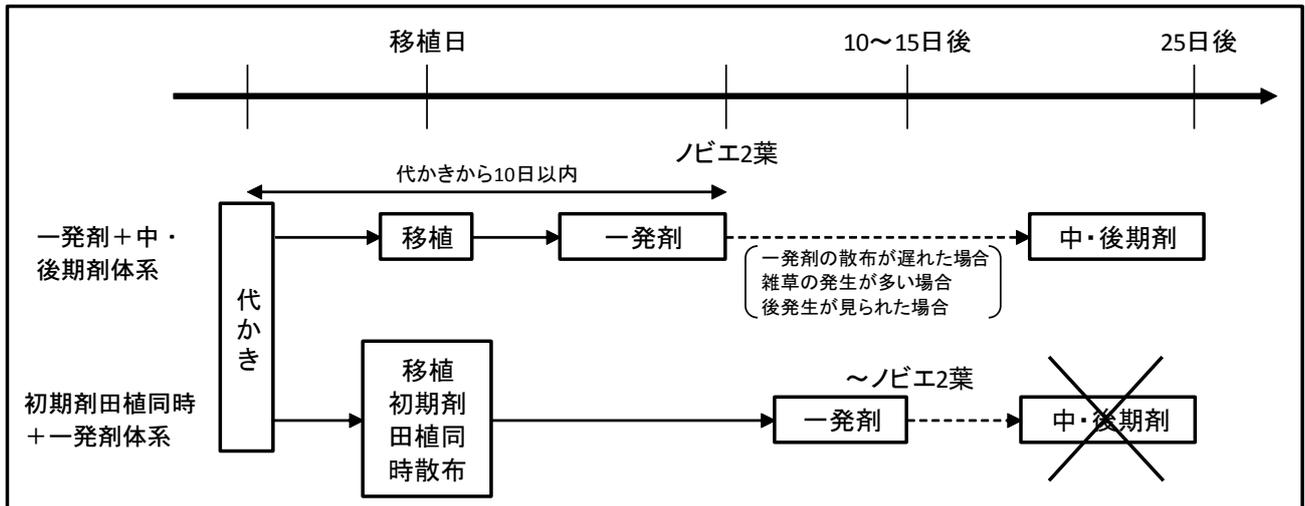


図1 初期剤田植同時+一発剤の雑草防除体系

表3 除草剤成分数とあきたecoraisへの適用

| 体系 | 成分数 | | | | あきたecoraisへの適用 |
|-----------------|-----|-----|-------|-----|----------------|
| | 初期剤 | 一発剤 | 中・後期剤 | 計 | |
| 一発剤 +中・後期剤 | 0 | 2~4 | 1~4 | 3~8 | できないことがある |
| 初期剤田植同時 +一発剤 | 1 | 2 | 0 | 3 | 可能 |

[発表論文等]

平成26年度秋田県農作物病害虫・雑草防除基準にピラクロン/兆1キロ粒剤(田植同時散布)を採用した。

